再びその人らしい生活に

ふれあいひろば

2021年 秋号 Vol.98

愛仁会リハビリテーション病院
三島圏域地域リハビリテーション
地域支援センター
住所：高槻市白梅町5番7号
電話：072-683-1212
URL：http://aijinkai.or.jp

1面 嚥下評価入院をはじめました
2面 【連載】セラピストだより⑧
オンライン活用しての退院前カンファレンス
3面 地域クリニックとの連携の中で㉜
4面 患者さまだより㉜／ 連載 高槻在宅サービスセンターだより

嚥下評価入院をはじめました

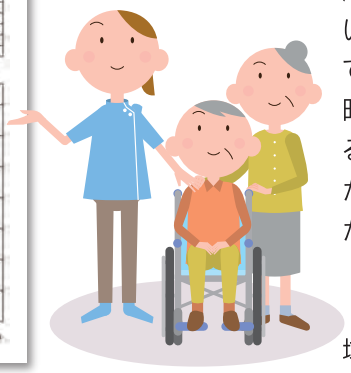
診療部 兒島 正裕

当院では退院後の生活期リハビリテーションの充実をめざすとともに、地域に向けた当院のリソースを有効に活用するための一環として、2021年10月より毎週火曜日に1泊2日の「嚥下評価入院」を開始しました。「嚥下」とは「食べ物や飲み物を飲み込むこと」を表していますが、飲み込みだけでなく、食べる意欲から、噛み砕く能力、食事の姿勢、食形態（お粥がよいのか、刻みやとろみが必要かなど）を総合的に判断して、患者さまによりよい摂食環境を御提示できるようにして参ります。

「嚥下評価入院」を利用される患者さまには、まず御予約の火曜日の9時に御来院いただき、コロナウイルスのPCR検査後、多職種（リハビリ専門医師、言語聴覚士、摂食嚥下障害看護認定看護師、管理栄養士、歯科医師・歯科衛生士）による摂食・嚥下評価を受けていただきます。この評価を13項目に分類してレーダーチャートにしたものをお示しし、患者さまの食べる能力の

「強み」・「弱み」をわかりやすく可視化いたします。次に採血、胸部レントゲン、嚥下造影検査などの諸検査を実施後、実際の食事場面を確認した上で、「食べる力を向上させるための」提案や指導を行わせていただきます。

現時点はまだ当院入院中に摂食嚥下障害があり、その後退院された方のみの御利用とさせていただいていますが、今後は、在宅・介護施設入所中の方や、地域の医療機関から御依頼いただいた方にも適応範囲を拡大していきたいと考えています。十分な食事量を摂取できない、食事の時に頻繁にむせる、誤嚥性肺炎を繰り返している、経管栄養から経口摂取への移行ができるのかなどの問題をお持ちの患者さまは、まずはかかりつけの主治医の先生に御相談ください。



医療機関の先生方におかれましては、当院地域医療部までご連絡いただけましたら幸いです。

セラピストだより VOL.8

自助具について

作業療法科　塚本 賢司

病気や加齢により、身体に何らかの障がいをお持ちの方の自立に役立ち、介護する方の負担を減らす役割をもつ道具を総称して福祉用具と呼んでいます。一般に福祉用具というと、車椅子や電動ベッド、杖などが思い当たるかと思います。その中で自助具というのは、自立した生活ができるように、食事、更衣、整容、トイレなど身の回りの動作ができるように行います。股関節が曲げられず、足先に手が届かないために、靴下を履くためのソックスエイド、片麻痺の方が片手で爪を切れるように台つき爪切り、握力が落ちた方にスプーンを握りやすくした太柄スプーンなどがあります。

作業療法では、障がいの程度や状態に応じた自助具の提案や作成をし、自助具を使った練習をすることで、よりよい日常生活が送れるよう支援しています。自助具は既製品として販売をしているのもあれば、簡単に手作りでできるのもあります。最近では3Dプリンターを使用して作成もしております。そういった環境や道具を変えて自分で行えることを増やしていくことが、作業療法の得意技です。

ソックスエイド

台つき爪切り

太柄スプーン

オンライン活用しての

退院前カンファレンス

地域医療部　琴浦 友理

退院する時に、入院前と大きく状態が変わると様々な不安が出てきます。

「家に帰ったら生活できるのかな」、「初めての介護は家族で対応できるのかな」、「サービス利用できると聞いたけれど、どんな人が関わってくれるのかな。」等々、家に帰るには患者様もご家族様も不安が募ります。

従来はそのような不安を少しでも軽減できるよう、患者様・ご家族様・在宅サービス担当者（かかりつけ医、ケアマネジャー・訪問看護師等）・病院スタッフで、顔を合わせて話し合いができるよう退院前カンファレンス（打ち合わせ）を開催していました。現在はコロナ禍の感染対策上、対面でのカンファレンスは困難になっていますので、当院ではオンラインを用いて、退院前カンファレンスを行っています。

パソコンやタブレット、スマートフォン等で参加者を繋ぎ、患者様の状態を共有したり、退院までに必要な準備や退院後の生活について話し合いを行っています。

インターネット環境が必要になってきますが、移動時間が削減でき、遠方のご家族様等と情報共有出来るのはオンラインカンファレンスのメリットだと感じています。

今後も感染対策は続くと思いますが、患者様・ご家族様が安心して退院を迎えられるよう、引き続き関係機関と連携を強化できるよう努めて参ります。

内科
小児科

外来診療／訪問診療（在宅医療）

天王山草野クリニック

〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町大山崎高橋10-2
TEL.075-925-5351（代表）
TEL.075-925-5352（地域連携室直通）

天王山草野クリニックは2021年4月1日に大山崎町に新規開院されました。
大山崎は大阪府、京都府に隣接する地域であり、天王山草野クリニックはJR山崎駅徒歩8分、阪急大山崎徒歩3分に位置します。
草野超夫院長先生に、開業された経緯やクリニックの特徴をインタビューさせていただきました。

開業された経緯

高校生の頃、父が脳梗塞・パーキンソン病を発症し、自宅で介護をしてきました。
父の介護を通して自宅で診療してくれる医師の必要性を感じ、初期研修終了後に家庭医療専門医の道を志しました。京都・兵庫で在宅医療について学び、地域の在宅診療の普及や医療の啓発を目指し、出身である大山崎で開業することとなりました。

クリニックの特徴

訪問診療が主体で、困っている方々の力になりたいという理念で診療を行っています。家庭医療は赤ちゃんから高齢者まで年齢・病気の種類問わず、幅広く対応します。さまざまな医療ニーズに対応できるよう、在宅でのレントゲン検査、超音波検査等の各種検査が可能です。緩和医療の対応や精神薬、漢方の処方も行っています。訪問看護と連携し、輸血の対応をすることもあります。常勤医は2名おり、訪問範囲の基準は半径8kmのエリアで高槻市への訪問も可能です。何でも相談できる24時間365日対応の地域密着のクリニックを目指しています。

*外来診療時間

下記時間以外は往診となります。

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～11:30	●	―	●	―	●	―

*アクセス

JR 山崎駅 徒歩8分
阪急 大山崎駅 徒歩3分

訪問範囲

大山崎町、長岡京市、向日市、八幡市、城陽市、久御山町、島本町、高槻市、枚方市などクリニックを中心に半径8km以内（応相談）

先生は「困ったことがあれば、なんでも相談して下さい。」とお話下さり、とても頼もしく穏やかな印象でした。この度はお忙しい中お時間頂きありがとうございました。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。（地域医療部 琴浦 友理）

草野超夫院長▶

患者さまだより VOL.32

INTERVIEW

インタビュー

当院入院歴がある光瀬 智洋さんが、パラリンピックのパワーリフティング59キロ級に出場され、日本新記録で10位に入賞され、インタビューさせていただきました。

Q パラリンピックへの出場が決まったとき、どのように感じましたか？

A. 出場が決まったのは繰り上がりでした。ドバイで行われた最後の大会で最終ランキングは11位でした。出場できるのは上位8名と1～2名補欠枠の為、諦めていましたが、上位の選手が他の階級に行くことになり、決まったときはびっくりしました。

Q 出場してどうでしたか？

A. 出場して楽しかったです。今までも海外大会や大きな大会にも出てきたけれど、とにかく、規模、舞台のつくり方が違いました。ここを目指して頑張ってきたので、今の自分のすべてを出し切ろうという気持ちで挑みました。

Q パラリンピックで感じたことは？

A. 選手村では両腕がない人、車椅子の人、義足の人、色んな障がいがある人がいました。ボランティアの人は過度に接触することなく、できないことがあれば手伝いましょうかと声をかける感じです。お互いが気をつかわず、ナチュラルに生きているなと思い、心のバリアフリーを感じました。

Q 今後目標は

A. 3年後のパリです。日本人初のメダル獲得することが目標です。また、以前から夢であった俳優業にもチャレンジしたいと思っています。

写真で着用されているジャージは、障がい者でも着脱しやすいよう工夫されているそうで、他にも記事には書ききれない様々なことをお話しして下さいました。お忙しい中ありがとうございました。更なるご活躍を応援しております。

地域医療部　田中 裕美子

愛仁会高槻 在宅サービスセンターだより

今年7月に高槻病院を退院し、すくすくと成長している双子をご紹介します。

訪問看護ステーション愛仁会高槻　佐藤 奈美

在胎週数27週、体重約950gで誕生し、生後6ヶ月体重4kgで退院しました。眼がくりくりとしたとても愛らしい双子です。泣いた時やミルク哺乳時は呼吸が荒くなってしまい、退院後も在宅酸素が必要な状態でした。2歳の兄がいるため、沐浴などの一般的な育児は心配なかったのですが、在宅酸素を使用した生活と超早産で生まれた双子の成長発達に不安があり訪問看護が介入することになりました。

両祖父母の支援が受けられない時間帯に週4回訪問し、在宅酸素やモニター管理、哺乳介助、赤ちゃん体操等行っています。また、訪問中にご両親でお買い物や、兄の受診、別室での在宅ワーク等、家族の用事をするための時間としても活用してもらっています。

双子の育児と甘えたい盛りの兄と犬2匹が、明るくて優しいご両親と両祖父母に囲まれて、成長していく様子を微笑ましく見守っています。

病院とは違う環境で不安や心配を抱えながら自宅へ退院される方も多くおられると思います。私たち訪問看護師は、これからもかけがえのない日常と笑顔を支えることができるように支援していきたいです。